



令和5年度 第1回検討会での指摘事項



令和6年8月2日

環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室



令和5年度 第1回検討会での指摘事項（1）

No.	資料	指摘事項	対応
1	資料 2	第1章と第2章の重複が気になる。第1章の中で、第2章に位置付けたほうが良い事項は早めに位置付けていただきたい。メリハリをつけて中間提言書の主となる第2章の整理をした方が良い。（齊藤委員）	中間提言の評価枠組み、構成案を再検討した。なお、各章間で内容や使用する指標の重複はあるものとする。（第2回検討会資料2）
2	資料 2	第1章で使えるデータの年次がいつ頃のものになるかが、重要である。使えるデータが2010年のものである場合、2030年のネイチャーポジティブに対する議論に影響する。政策を導入してのタイムラグもあるし、政策以前の状況や政策以後の状況の変化に耐えうる情報のデータが第1章で得られるのか検討いただきたい。（橋本委員）	指標の優先度設定の考えを取り入れ、定期的にデータが取得できるか否か、継続性が高く時間的変化を評価し得るか否かを判断基準として含めることとした。（第2回検討会資料3）
3	資料 2	第1章と第2章の関係を議論する際、国家戦略の状態目標の設定がこれで良かったかという議論が出てくる。それは、JBO4の中で議論するか、別途議論するかをお聞きたい。 JBO4の内容だけでなく、国家戦略の指標設定についての提案があってもよいのではないか。（橋本委員）	中間提言では、国家戦略の状態目標に関して、JBO 3 以降の特筆されるべき進展や課題の特定に関する中間レビューを行い、それを含めた提言を示す。国家戦略の指標は別途検討するが、国家戦略の評価には本提言のデータを活用していく。（第2回検討会資料2）
4	資料 3	各テーマ案の位置づけがよく分からなかった。JBOの更新の際に一貫して評価できるフレームワーク全体を示していただく、全体のフレームワークに対する議論をする必要があると考える。全体像無しでは、現在のテーマはランダムに選定されたようにも見えてしまう。（角谷委員）	今回より、章立てに沿ってご議論いただく形とする。（第2回検討会各資料）
5	資料 3	国家戦略の閣議決定の際に、網羅的に指標が記載されている。その指標との相互対応（不足しているものは付加する、現実性の低いものは削除するなど）を検討するべきではないか。（角谷委員）	JBO4の指標については、国家戦略の指標も含めて設定していく。国家戦略の指標は別途検討するが、国家戦略の評価には本提言のデータを活用していく。（第2回検討会資料2）
6	資料 3	JBO4がどこまでをカバーするのかを理解できていない。現状を把握するという趣旨だと思うが、ネイチャーポジティブに向けてということであれば、再生の余地やそれに対する対応方針なども必要ではないか。（足立委員）	JBO4の位置づけについては、改めて整理した。（第2回検討会資料2）

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（2）

No.	資料	指摘事項	対応
7	資料 3	科学的な知見に基づくのは重要なことである、現在や過去だけでなく、将来の可能性についての検討も科学的に評価できるところかと思われる。（足立委員）	将来予測についてはS21で検討されていることもあり、JBO4本体に盛り込むことを想定する。（ 第2回検討会資料2 ）
8	資料 3	テーマ設定について、愛知目標から昆明・モンリオールに向けてどのようにターゲットが変わっていったかがポイントになると考える。国家戦略策定時に愛知目標から昆明・モンリオールにかけての変化を整理しているので、そこに立ち返って検討いただきたい。（橋本委員）	昆明・モンリオール生物多様性枠組に対応した国家戦略の内容に忠実に沿う形で指標群を設定した。（ 第2回検討会資料4 ）
9	資料 3	文化については、IPBESのレポーティングカテゴリーとの整合性も考えていただきたい。文化は範囲が広く何を文化として捉えるかが難しいため、物的・非物的（文化は非物理に分類）と分けたほうが評価しやすいと考えられている。（橋本委員）	文化的サービスについて、S-21の検討と整合させることで、学術における取扱い範囲と結果的に整合すると考え、深町委員にもヒアリングを行った。（ 第2回検討会参考資料 1 ） <u>指標は整理・検討中である。</u>
10	資料 3 「参照すべき情報」	推進費の環境問題解決型でTNFDに対応した評価ツール（東北 金本先生代表）の開発として、農産物に特化して、農産物の生産・消費が生物多様性に及ぼす影響評価を検討している。国内の生物多様性トレンドの評価・定量化を主眼においた推進費の取組が本年度よりスタートしている。生物多様性の状態を評価する点では良い情報源となる。（角谷委員）	金本先生や角谷委員にヒアリングを行った。（ 第2回検討会参考資料 1 ） <u>指標は整理・検討中である。</u>
11	資料 3 「参照すべき情報」	自然環境保全基礎調査の総合解析のとりまとめの座長を務めているので、JBO4に使いやすい形で解析を進めていきたいと考えている。スケジュール的にあまりJBOとズレがないため、情報共有を行いながら進めていけるとよい。（角谷委員）	自然環境基礎調査総合解析の指標も含め指標群を整理した。（ 第2回検討会資料4 ）

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（3）

No.	資料	指摘事項	対応
12	資料3 「参照すべき情報」	環境省の他局の情報収集を進めてはどうか。例えば地球局の気候変動に関するデータやアセスメントの情報があるし、環境再生・資源循環局であれば、汚染に関する情報を有している。環境省内のガバナンスを活用し、様々な部局が持つ情報を生物多様性の情報を共有させる仕組みが必要ではないか。（橋本委員） 省庁連携もはかるべき、農水省等もデータを蓄積しているので、他省庁にもアプローチすることが重要である。（山野委員）	各部局や各省庁のデータも参照しつつ、国家戦略の指標も含めて指標群を設定した。（第2回検討会資料4） <u>今後も情報収集する。</u>
13	資料3 「参照すべき情報」	IPCCの都市の特別報告書が2027年頃に発行されるが、このあたりをどう見ていくか。GBFの目標中にも都市が入っているし、これから空間計画の役割への注目度が高まっていく中で、行政ツールをどのように位置付けるかをあわせて検討する必要がある。（橋本委員）	<u>2028年に公表予定のJBO4に向け、これらの動きは注視していく。</u> 中間提言に関しては、現時点で評価の可否を含めて整理し、課題として認識された場合には、『提言』として明示する。（第2回検討会資料2）
14	資料3 「参照すべき情報」	評価まで行われないかもしれないが、モニタリングサイト1000は来年度とりまとめ報告書が出てくるので参照可能である。（山北委員）	モニタリングサイト1000のデータも含め指標群を設定した。（第2回検討会資料4） <u>今後もとりまとめ報告書の内容を注視しながら指標群を追加する。</u>
15	資料3 「参照すべき情報」	4月から環境省推進費のS23が始まる。全体ではデジタルツインのような形で、水質等も含めた評価も行うことになっている。環境省の水質担当の部局との連携も検討いただきたい。（山北委員）	<u>2028年に公表予定のJBO4に向け、これらの動きは注視していく。</u>
16	資料3 「参照すべき情報」	気候変動に関しては影響評価報告書の情報が参照可能である。プロジェクトとしてはCRESTで、海洋カーボン課題等の気候変動の課題が扱われる。（山野委員）	影響評価報告書は最新のものが2020年に公表され、概ね5年後に更新される予定。 <u>2028年に公表予定のJBO4に向け、これらの動きは注視していく。</u>

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（４）

No.	資料	指摘事項	対 応
17	資料3 「参照すべき情報」	S15で検討したが、タイミングの問題でJBO3に取り込みきれなかった分析がある。例えば、オーシャン・ヘルス・インデックスや地域戦略。地域戦略について、メタ解析やアンケートを行い、地域戦略の機能について一定の評価が既に行われている。これらのデータのなかにはまだ使えるものがあると思う。（齊藤委員）	オーシャン・ヘルス・インデックスについては山北委員にヒアリングを行った。（ 第2回検討会参考資料1 ）指標は整理・検討中である。地域戦略については指標の要素の内容に合わせて適当なものを指標群として位置づけている。（ 第2回検討会資料4 ）
18	資料3 「参照すべき情報」	経団連とIGESがアンケート調査で、TNFD等の民間主導の取組状況を把握しており、12月に報告書が公開されている。民間主導の取組進捗や、国家戦略の進捗への貢献を評価する情報源になる可能性があるため、うまく活用いただきたい。（齊藤委員）	国家戦略指標の一部としても使用されており、指標群として位置づけている（ 第2回検討会資料4 ）
19	資料3 「参照すべき情報」	S14でLCAの伊坪先生（早稲田大学）が、CO2の排出量が増加すると生物多様性がどの程度減少するかを積み上げ型で計算する方法を開発している。このようにLCA分野は影響評価に活用できる。（大橋委員）	関連情報について金本先生にヒアリングを行った。（ 第2回検討会参考資料1 ）指標は整理・検討中である。
20	資料3 「参照すべき情報」	国有林の中の保護林は5年に1回しっかりしたモニタリングをしているので、そのような情報を利用することも大事。（深町委員）	指標は整理・検討中である。
21	資料3の 「第1章の内容について」	JBO4では矢印による評価を改善できると良い。レポート全体のサマリーとして矢印を用いる分には良いかもしれないが、エキスパートジャッジによって矢印で評価することはJBO4以降の継続性やしっかりした観測・評価のインセンティブの観点からも懸念される。ネイチャーポジティブが課題になっている中で、全体の傾向とその減り方など感度を持った評価をすべきである。評価が粗ければ改善の方向性も定まらないため、矢印による評価は改善頂きたい。（角谷委員） 矢印による評価を定量的な評価に改めるべきという指摘には同意である。例えば、人工林の伐採に関しては衛星画像を用いた定量評価が可能になっており、可能なものに関しては定量的評価を目指していただきたい。（大橋委員）	評価方法については、JBO4本体のとりまとめの段階で、これまでのJBOでの評価スタイルを継続（矢印でのエキスパートジャッジ）しつつ、エキスパートジャッジの根拠を明確にするために、指標のランク分けを行い、主に優先度の高い指標を中心に根拠を持った評価を行うこととする。（ 第2回検討会資料3 ）

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（5）

No.	資料	指摘事項	対応
22	資料3の「第1章の内容について」	「3－3 間接要因、有効な介入点（再掲）」について、科学的な知見に基づき介入・間接要因・直接要因の関係が明らかになるよう進めていただきたい。（久保委員）	介入・間接要因・直接要因の関係も含めて、JBO4中間提言の枠組みイメージを改めて整理した。（第2回検討会資料2）
23	資料3の「第2章の内容について」	生態系サービスのうち特に供給サービスに関しては、総量を指標として評価すると、人口減少により正確な評価ができないため、一人当たりの指標や、外国への依存量を確認できる指標を用いると良いだろう。（橋本委員）	現状総量を表す指標を置いているが、改めて他サービスとの関係性も含めて指標の処理について本検討会にて御意見伺いたい。（第2回検討会資料4）
24	資料3の「第2章の内容について」	農業関連では、「みどりの食料システム戦略」のKPIを利用できる可能性もある。農薬削減量や事業系の食品ロスなどがモニタリングされているはずであり、こうした農林水産省で収集しているデータを活用できると良い。（橋本委員）	各部局や各省庁のデータも参照しつつ、国家戦略の指標も含めて指標群を設定した。（第2回検討会資料4）
25	資料3の「第2章の内容について」	土地利用に関しては再生していく土地をモニタリングできると良い。（状態目標1-1関連）（足立委員）	再生に関する指標はヘッドライン指標にも位置づけられているところ、その詳細情報も注視しながら、国家戦略の行動目標の中間評価に向け手法の設定を行っていく。（第2回検討会資料4）
26	資料3の「第2章の内容について」	文化と自然との関わりを示す指標については、事業者の数や宣言した数よりも、絶対的な量（面積など）を評価することが大事である。（状態目標2-1関連）（足立委員）	文化的サービスについて、S-21の検討と整合させることで、学術における取扱い範囲と結果的に整合すると考え、深町委員にもヒアリングを行った。（第2回検討会参考資料1）指標は整理・検討中である。
27	資料3の「第2章の内容について」	海外では認証された原材料の割合やNbSへの投資額など用途を特定した指標が使われているので意識すると良い。（状態目標3-1関連）（足立委員）	指標は整理・検討中である。

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（6）

No.	資料	指摘事項	対 応
28	資料3の「第2章の内容について」	エコロジカルフットプリントに関して、企業としては重要な地域・生態系に関する指標があると使いやすい。現在の指標は国単位であるため粗すぎる。（状態目標3-2関連）（足立委員）	フットプリントに関する指標については現状掲げられる指標がエコロジカルフットプリントのみであるため、引き続き指標群として位置づけている。（第2回検討会資料4）
29	資料3の「第2章の内容について」	状態目標4-2の行動変容に関して、世論調査を評価指標案として挙げているが、世論調査は意向に関する調査が中心である。意向ではなく行動に焦点を当てた指標を含められると良い。（久保委員）	関連情報について曾我先生にヒアリングを行った。（第2回検討会参考資料1） <u>指標は整理・検討中である。</u>
30	資料3の「第2章の内容について」	状態目標5-2の金銭的な部分に関しては、各省庁の予算執行額が関わるのではないかと。また募金のデータベースなどもあるので、生物多様性の視点で取りまとめると利用できる可能性がある。（久保委員）	対象とする範囲についてはGBFでの指標議論も見ながら検討中。募金の関連情報について曾我先生にヒアリングを行った。（第2回検討会参考資料1） <u>指標は整理・検討中である。</u>
31	資料3の「第2章の内容について」	状態目標2-1の文化と自然との関わりを示す指標に関して、最近の国際的なレビューによると関係性価値が重要だと言われている。中枢種なども大事な概念として抽出できているので、人と自然、文化との関係を見ていただきたい。（深町委員）	文化的サービスについて、S-21の検討と整合させることで、学術における取扱い範囲と結果的に整合すると考え、深町委員にもヒアリングを行った。（第2回検討会参考資料1） <u>指標は整理・検討中である。</u>
32	資料3の「第2章の内容について」	状態目標5-1の情報基盤の整理について、データ収集に係るモニタリングを担う人材の人員数や年齢層を指標として含められると良い。（大橋委員）	<u>指標は整理・検討中である。</u>
33	資料3の「第2章の内容について」	ネイチャーポジティブを強調するのであれば、直接的な供給サービスに対して、コロナ禍を経て人々の関りがどのように変化してきたかを示せると良い。指標だけになるとドライになるため、企業や若者などを巻き込んでいる活動等を指標とは別にBOXに含められると良い。（齊藤委員）	中間提言における「第2章 総括と今後の課題」における2030年ネイチャーポジティブの実現に向けた方向性の中で御指摘の点も含め触れていく。（第2回検討会資料2）

令和5年度 第1回検討会での指摘事項（7）

No.	資料	指摘事項	対応
34	資料3の「第2章の内容について」	生物多様性国家戦略2023-2030が策定される際に状態目標・行動目標に関する指標のリストが作られており、これをたたき台として事務局で包括的な指標群としてJBO4では何を設定すべきかを再度検討いただきたい。現状、収集可能な指標を用いるという印象が強いが、まずどういった指標が必要かということを検討した上で、どうしても利用できない場合には別途対応するという進め方が良いのではないか。（角谷委員） 国家戦略の検討の際に指標リストが網羅的に提案されていた。その中にはおそらく評価できる指標もあれば、アイデアベースのものもあり、幅広となっているだろう。評価の実行可能性も含めて評価していくのもJBOの役割ではないか。JBO4で検討が難しければ、JBO5に向けてどのように検討するかを考える必要がある。（吉田委員）	ご指摘を踏まえ、状態目標の要素に適合する指標を探索するフローを整理した上で、このフローに沿って国家戦略の指標、JBO3指標、その他情報から指標データを収集し、整理している。その上で、中間提言での活用可能性も整理し、間に合わない指標については2028年のJBO4本体では取り入れることとする。（第2回検討会資料3）